



フォローアップ研修の紹介

国立情報学研究所 書誌作成研修企画WG

大阪市立大学 中村 健

これまでのフォローアップ

- 1) 課題振り返り資料（PDF）の送付
 - ・ スタッフによる課題の解説
 - ・ 各班が作成した解答の紹介

受講者間での考え方の共有をはかり
受講者の理解を深める。

⇒個人ベースでのフォローアップ

- 2) フォローアップアンケートの依頼
 - ・ 次年度開催時の参考資料

これまでのフォローアップ

・フォローアップアンケートの回答から

Q2.書誌作成の際の視点や考え方が変わりましたか？

- ・毎年、**7割以上**の受講者が「変わった」と回答！

Q6.研修後に、職場の人（同僚・部下）に対して書誌作成の基準等の資料を使って、論理的に説明できるようになりましたか？

- ・毎年、**ほぼ半数**以上の受講者が「前よりは少しは出来る」と回答
- ・毎年、**2割**の受講者が「研修を受ける前よりきちんと説明できる」と回答

これまでのフォローアップ

・フォローアップアンケートの回答から

Q7.研修後、誰かに書誌作成のアドバイスをしましたか？

毎年、**7割**の受講者が「職場の人(同僚・部下)にした」と回答

Q9.研修後に研修課題の解説をお送りしました。時期は適切でしたか？（送付時期 研修終了1～1.5か月後）

毎年、**5割以上**の受講者が「もう少し早い方がよい」と回答

Q10.送付された資料を見て、内容の理解をさらにふかめられましたか？

ほぼ100%の受講者が「理解できた」「さらに理解できた」

これまでのフォローアップ

- ・ フォローアップアンケートの回答からみえること

⇒早い時期にフォローアップすれば、さらに自信を高められる？

Q6.研修後に、職場の人（同僚・部下）に対して書誌作成の基準等の資料を使って、論理的に説明できるようになりましたか？

- ・ 毎年、**ほぼ半数**以上の受講者が「前よりは少しは出来る」と回答
- ・ 毎年、**2割**の受講者が「研修を受ける前よりきちんと説明できる」と回答

⇒2割がきちんと < ほぼ半数以上、前より少しは出来る

Q9.研修後に研修課題の解説をお送りしました。時期は適切でしたか？（送付時期 研修終了1～1.5か月後）

- 毎年、**5割以上**の受講者が「もう少し早い方がよい」と回答

これまでのフォローアップ

・スタッフ陣の悩み

- ・研修時間内にできない課題がある。

例) 古典籍（和・洋）に関する問題

→CAT2020以降、自館でとる確率が高まる資料

目録経験者でも、所属の環境でとったことのない目録がある

所属機関に古典籍資料の所蔵が少ない

所属ではすでに目録が出来ていた

など

この研修でチャレンジしてほしい！

研修とは、今の実力を高める場であると同時に
未来を見据えたトレーニングの場でもある。

これまでのフォローアップ

- ・ コロナ禍によるWeb会議システムの普及
NIIフォーラム、JUSTICE版元説明会、図書館総合展…
- ・ 新たな研修環境が課題解決につながる！？
PDF/アンケートフォーム



⇒個人ベースでのフォローアップ対応

⇒早い時期にフォローアップを実施すれば、受講者の自信をさらに高められる

⇒古典籍資料など研修内に終わらない課題がある

新たなツールを使った研修のフォローアップに取り組む
チャンス！？

これからのフォローアップ

- 2021年度、私たちはこのようにフォローアップします！

1. 事前研修

S L 教材

事前課題

送付された事前課題に取り組んでから研修に臨みます

①

②

③

3. 事後研修

フォローアップ研修

Web研修 (試 行)

研修終了後に送付される解説資料で復習することもできます

2. 当日研修

■ 目的(仮)

2021年度以降はWeb開催し、双方向で質疑等やりとりを行うことによってより一層の知識・技能の定着を図る。

■ 到達目標(仮)

フォローアップ研修後に、さらに自信をもって、職場の方(同僚・部下)に対し、目録情報の基準等適切なツールを参照しながら、論理的に説明をできるようになる。

これからのフォローアップ

・ 研修イメージ図



Web会議システムを使って研修を開催

- ・ 質問に答える
- ・ 課題に取り組む

体験を共有する
⇒理解を深める効果的な道

